

高専生・高校生が延べ 2000 名参加
出る杭を育てる「近未来ハイスクール」
16 名の変人が 320 名の都立国立高校の生徒と対話

近未来
ハイスクール

高校生向けのキャリア教育プログラムを提供する株式会社オープンラボ*1（東京都千代田区、代表取締役 小林利恵子）は3月12日（火）、都立校の中でもトップレベルの進学校でもある東京都立国立高等学校において、授業「人間と社会」への協力として、近未来ハイスクールを提供しました。対象は全1年生（320名）。オープンラボの運営する近未来ハイスクールでは、変人（各分野で活躍するエッジのたった大人、変化しつづける人）との対話を重ねることで、学生が主体的に考え、行動し、人生を楽しむ大人“出る杭”になるきっかけをつくります。このキャリア教育プログラムは2017年3月より様々な形で実施し、2年で延べ約250人の変人と約2,000人の高校生が対話を行っています。今回の国立高校では、弁護士や会計士などの士業の変人、美容師や料理研究家などの手に職を持つ変人、外資系会社員やNPO代表を務める若い世代の変人など、趣味でも仕事でも突出している16人の変人が高校生と対話をしました。



【近未来ハイスクール@国立高校概要】

■タイトル：「実は誰でも持っている、挫折をバネにするメンタルと面白さを見いだす発想力」

■日時：2019年3月12日（火）8:30~12:25

■会場：都立国立高等学校

■職業人：16名参加。別添資料①参照

■内容：16名の職業人と自由に対話を行う

- ・はじめに&職業人自己紹介
- ・視野拡大セッション（対話×2）＝教室にやってくる職業人ペアと話そう！
- ・探究セッション（対話×1）＝話をしてみたい職業人のところを自由に回れる深掘りセッション。
- ・振り返り（職業人から、高校生から、先生から今日の感想を発表）

■ねらい：与えられたものに無自覚なままでは無く、主体性をもってものごとに取り組む楽しさに気づく。

他人の多様性を受け入れ、自分の個性を大事に思う具体的な仕事内容や働き方を知ること、自分の向かいたい方向に気づく。

仕事は大変だけどワクワクする部分も多いことに気づき、心に火がつくことで、今まで以上に真剣に普通の勉強や授業に向き合う、何かをはじめ、などの行動変容をおこす

【変人はこう話した】※変人のプロフィールは別添資料①参照

- ・自分の好きなことで体を満たしてください。個性的であってください。
- ・こういう人にならなくても良い。ただ選択肢として「こういう生き方もあるんだ」と知ってもらえれば。
- ・高校生からの質問で自分自身への気づきがあった。
- ・変人の中でも高校生の時になりたいと思っていた職業に就いているのは16人中2人しかいない。今と違うものになっているのは普通。正しい選択が何かを考えるより好きなものを選んでほしい。自分の好きなことで、自分の能力を発揮できるものが何かを考えてほしい。

【高校生はこう感じた】※当日の会場の様子は別添資料②参照

- ・今は、将来の夢や目標はないまま過ごしているし、まだ決められないけど、色々な選択肢があるという希望が持てた。
- ・一番大切なのは自分の好きなことでやりたいことだ！と話を聞いて分かった。勉強はもちろんするけど、その他の時間は個性を磨く時間にしていきたいと思う。
- ・日本では「同じこと」が大事にされると思っていたので、「個性的であった方がいい」と言った変人に驚いた。
- ・「親が理解できない職業に就いても良い」という言葉が印象的だった。昔と今は需要が違って、その違いを自分が理解していれば良いのだと思った。
- ・自分たちが大人になったときにどんな仕事が必要とされるのか、AIの技術発展が進む中、人間として必要なことは何かを考えた。
- ・メディアを作ってみるとい話を聞いて、一度やるか迷っていた高校生新聞の記者をやってみるのも良いかなと思った。とてもためになった日でした。
- ・挫折を挫折と思っていないような、挫折を明るく乗り越えちゃうような人ばかりで驚いた。見習いたい。
- ・今日話した変人は自分のことが好きで自信を持っている人が多いので、自分も自分のことを全部否定するのではなく、少しずつ肯定したいと思った。

【近未来ハイスクールの使命】

近未来ハイスクールは、第一線で仕事をする「職業人」と「学生（生徒）・先生」をつないで、未来につながる「行動変容」のきっかけを作ります。

学生時代は保護者と先生以外の大人と接点がほとんどありません。また、学校で働く先生たちも多様な社会で働く社会人とのつながりを広げる時間をもてずにいます。近未来ハイスクールは、生き生きと働く多様な仕事をする大人と高校生が出会う場をつくることで、生徒が近い未来になりたい職業のイメージをふくらませ、先生が「社会と学生（生徒）をつなぐ存在」になる支援をします。とりあげるテーマは楽しく生きる・近未来の安定志向といった主体的に人生を考えるきっかけを与

えるものから、SDGs や人工肉など社会課題や未来の技術など、自ら問いを立てて最適な答えを探す「探究活動」につながるものまで、幅広い範囲を扱います。STEAM を通じた生徒の育成のためにも、業界の最先端で分野をまたいで活躍する変人との出会いを提供します。

*1 株式会社オープンラボ <https://www.opnlab.jp/>

コンテンツ戦略やコミュニティ開発など企業の広報コミュニケーションの支援を行う。セミナー企画・運営などを通じてつちかった、専門性をもつエッジのたった大人との豊富なネットワークを活用し、変人と若い世代をつなげる「近未来ハイスクール」の企画・運営も行う。

【開催実績】

2017年

3月 第1回近未来ハイスクール 対話型「カッコいい大人ってなんですか？」

7月 ワークショップ「教えて！高校生とヤマハがもっと仲良くなる方法」

12月 東京都立第三商業高等学校

2018年

4月 いろいろな職業の人から聞く、生き方とキャリア（主催：ノートルダム女子大学/対象：関西在住の女子高校生）

5月 東京都立小山台高等学校（定時制）「職業を知る～エンジニア」

7月 東京都立第四商業高等学校

8月 徳山工業高等専門学校「働くってなんだろう」「生きるってなんだろう」
高専機構主催「高専フォーラム」（先生対象）

11月 東京都立戸山高等学校「細胞培養を体験し近未来の社会を考える」

東京都立第四商業高等学校「映像を作ろう～プロと一緒に課題に向き合う～」

東京都立小山台高等学校（定時制）「PBL～小山台商店街に休憩所をつくろう」

12月 東京都立高島高等学校「高校生が会社を作る&プロにプレゼン」

2019年

1月 東京都立第三商業高等学校 広告と情報の活用～企業サイトづくり

2月 東京都立駒場高等学校 PBL 社会課題解決（SDGs）の一步を踏み出す

3月 東京都立国立高等学校

■報道・一般の方のお問い合わせ先

株式会社オープンラボ 川久保・小林

〒102-0074 東京都千代田区一番町 23-3 番町ロイヤルコート 406

e-mail : information@opnlab.com TEL : 03-5843-6356

【次回の近未来ハイスクールのご案内】

2019年3月24日（日）「ゆるっとグローバル～変人と語る海外～」（一般参加可）

https://www.kinmirai.co/2019/01/25/190324_global/

【別添資料①】 当日参加した職業人一覧

・ 新井 佐恵子／公認会計士



を歴任。

有限会社アキュレイ代表。公認会計士。日本企業女性初 CFO。会計監査及び税務業務に従事した後、IT系のベンチャー企業を共同創業者と起業し、CFO 管理本部長として経理、総務、人事システムを一から構築、事業計画、資本政策、資金調達等に携わり、設立3年後に東証マザーズ第号上場を達成。米国 IT 子会社社長(在住8年)、ホテルウェディング業や環境エネルギー業等の CFO 及び取締役、顧問等

・ 伊藤 有／Business Insider Japan 副編集長



2000 年代初頭から大手 IT 出版社の雑誌、および PC/IT 週刊誌で、ハードウェアから Web サービスまで、BtoC テクノロジー全般を主戦場に活動。媒体連動の Web メディアの立ち上げ、日本唯一のアップル発表会の現地生放送の企画・出演、3 万人規模のコンシューマー向け IT イベントの立ち上げ・企画・運営など形式を問わないメディア展開を手がける。

・ 境 真良／国際大学 GLOCOM 客員研究員、津田塾大学・女子美術大学非常勤講師、(独) 情報処理推進機構参事



93 年東京大学法学部を卒業し、通商産業省(現・経済産業省)入省。01 年から一貫してエンタテインメント産業、情報産業に携わっており、メディアコンテンツ課課長補佐、東京国際映画祭事務局長、早稲田大学 GITS 客員准教授、(株)ドワンゴニコニコプラットフォームセクションマネージャ、経済産業省国際戦略情報分析官(情報産業)などを経て、2018 年 7 月より(独)情報処理推進機構参事も務める。

・ 中山 順司／経営ハッカー編集長 (freee 株式会社)



なるべくたくさんの人に自社の情報を伝え、かつ企業に対してポジティブな印象を持ってもらう。何をどう料理して伝えるのか、もっとも効果がある手法、コンテンツは何かを突き詰めている。転機はアメリカ留学。著書『お父さんがキモい理由を説明するね』は、娘への暑苦しい(=キモい)愛を娘と対話しながらぶつけていく名著。

・ 西 克徳／デザイナー



選ばれ方をデザインする Grand Design inc.代表取締役。東京・上海・香港に拠点を持ち企業や商品のブランディングやプロモーションを行う。

高校時代は NASA を本気で目指していたが、ある日塾の先生に「お前は理系じゃない」と言われ、迷った末に美大に方向転換したことが今のルーツ。

・ 仁木 崇嗣／一般社団法人ユースデモクラシー推進機構代表理事/CEO



株式会社火力支援代表取締役。デジタルハリウッド大学院メディアサイエンス研究所（鴨志田晃研究室）研究員。地域デザイン学会参与。NPO 法人全世代理事。自由民権現代研究会呼びかけ人。陸上自衛隊少年工科学学校卒業後、航空学校を経て、一般幹部候補生合格を機に退職。ベンチャー企業勤務を経て、23 歳で独立。YDPA 設立者として、未来世代のための政治の実現を目指し活動中。

・ 深谷 行弘／株式会社 PB-Partner 代表取締役、公認心理師（カウンセラー）



1991 年より多くの企業で人事制度の構築支援、従業員の教育研修、個人やグループのカウンセリングなどを、メンタルヘルスケアとモチベーション・マネジメントの2つを核として展開。最近では Business Survival Skill（仕事の段取りのつけ方と優先順位付けの方法）と Mental Toughness Training（行動につながる自己動機付けの方法）を組み合わせ実践型の総合研修で、仕事をスムーズに且つストレスを溜めにくいスキルの浸透に力を入れている。

・ 藤田 祐司／Peatix Japan 株式会社 共同創業者、取締役、ゼネラルマネージャー



（株）インテリジェンスにて、クライアント企業の採用活動をサポートする営業を担当後、03 年にアマゾンジャパンに入社。新規獲得営業、アカウントマネージャーを経験後、マーケットプレイス事業部営業責任者に就任。日本のマーチャント@事業、FBA 事業の立ち上げに従事した後、09 年 Orinoco 株式会社入社。11 年 12 月より Orinoco Peatix 株式会社取締役に就任。17 年 9 月より現職。

・ 増田 智士（ますだ さとし）／若手起業家（代表取締役ブランドクリエイター）



世界で通じるブランドづくりや、モノづくりを支援するため、2014 年に株式会社 TO NINE を設立。支援だけでなく自社でもブランドを立ち上げ、オーダーシャツの KEI、結婚指輪の IWAIGAMI を展開。2019 年はコスメブランドを立ち上げ予定。

・ 松本 暁義／インド系（外資）会社員（ゾーホージャパン）



宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校から東京大学農学部へ進学。東京大学公共政策大学院卒。現在はゾーホージャパンで勤務しているが、そのキッカケは「友人に誘われたから」で、当時 IT には興味がなかった。現職に就いてからも持ち前の勤勉さを活かして特技がタミル語となったり、育休の取得をし一時家事に専念するなど、1 日 1 日を楽しく大切に生きる会社員。

・ 松本 久美子 / 料理研究家



野菜ソムリエ pro・オーガニック料理ソムリエ・C.P.C チーズ検定コムラードオブ
チーズなど取得し、長年様々な食に携わり、企業のレシピ開発や自宅にて cucina
coure 心の台所を主宰、真心こもった料理をモットーに日々、食べることの大切さ
を提案している。

・ 松本 甚之助 / 弁護士（三宅坂総合法律事務所）



中小企業の顧客を中心に、海外の法律事務所と緊密に連携し、国際取引、クロスボ
ーダーM&A、国際紛争、国際倒産処理手続等の涉外案件を多数取り扱う。特に ASEAN
諸国（タイ、インドナシア、ベトナム、フィリピンなど）や中国・インドなどにお
ける M&A 等提携取引の事例と相談を多く手がける。

パートナーとして、事務所を経営。

・ 松本 良輔 / 美容師



有限会社エレガンス&チャーム代表

東京、横浜で美容室4店舗を経営する美容師。ショーや撮影などのクリエイティ
ブ活動のかたわら、プロ向けの技術講習と、学生向けの教育活動を行なっている。

・ 水野 操 / 製品開発コンサルタント



有限会社ニコラデザイン・アンド・テクノロジー 代表取締役社長、一般社団法人
3D データを活用する会（3D-GAN） 理事、『あと20年でなくなる50の仕事』の著
者。最近では、法政大学アーバンエアモビリティ研究所の特任研究員として、空飛
ぶクルマの開発にも関わりはじめ、若い頃の空への夢実現に足を踏み出している。

他2名

【別添資料②】当日の様子

＜職業人自己紹介の様子＞



＜教室で行われた第一セッション&第二セッションの様子＞



＜教室と多目的ホールに分かれた移動自由な第三セッションの様子＞

